

子宮頸がん 定期検診を 本社でキレイ女子大 女性疾患 130人知識深める

子宮頸がんの予防啓発キャンペーン「ふくいキレイ女子大」の「健康とキレイのアカデミー」(福井新聞社主催)が15日、福井新聞社・風の森ホールで開かれた。県内の女性約130人が参加し、子宮頸がんや乳がんについて早期・定期検診の大切さを学んだ。

第1部は、県済生会病院の等原善郎副院長と福井大医学



子宮頸がんや乳がんについて、県内の医師が検診の大切さを訴えた「ふくいキレイ女子大」=15日、福井新聞社・風の森ホール(青池才撮影)

部附属病院の知野陽子産科婦人科医師が、子宮頸がん、乳がん、生理など、女性特有の疾患や不調について参加者の質問に答えた。

笠原副院長は、乳がん検診の頻度について、40歳を過ぎたら2年に1回はマンモグラフィー(乳房エックス線撮影)検診を受けるようアドバイス。乳房を鏡に映して見たり手で触ったりして、普段の状

態を把握するセルフチェックの重要性を強調した。

知野医師は、子宮頸がんの症状や治療に関して、患者から「インターネットにこう書いてあった」との相談に触れ「出どころが怪しい情報に振り回されるのでなく、日本産科婦人科学会のホームページなどを参照してほしい」と話した。

この後、福井大医学部看護

学科の女性3人が子宮頸がん検診の体験レポートを発表。子宮頸がんの20歳代の受診率は20%台にとどまっているとし「検診は費用も時間もそれほどかからないことが分かった。検診は自分の体のことを考えるよい機会になる」と受

診を呼び掛けた。

第2部では、2017ミス・ユニバース・ジャパン福井県代表の高井麻由果さん(21)「越前市出身」が、美しさを保つ秘訣などをテーマに講演した。

(宇野和宏)